

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	札幌市立常盤小学校 5、6年生 104名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<事業としてのねらい> ・オリンピック・パラリンピックそのものへの興味関心の向上だけでなく、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解交流、共生社会への理解を図る。 <キャリア教育としてのねらい> ・キャリア教育の一環として、困難さを乗り越えて自分の夢を果たしたオリンピック・パラリンピアンのお話を聴くことで、将来への夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする。
5 取組内容	事前学習の中ではオリンピック・パラリンピックの概要や現在の将来の夢へ向けた自己理解を行う。その後、元バイアスロン五輪代表 目黒宏直氏の講話を聴く活動を通してスポーツの価値への理解や規範意識の大切さについて気づき、その気づきを事後学習の中でまとめる。 ○指導計画 「総合的な学習の時間」1時間（事前学習） ・事前学習としてオリンピック・パラリンピックの概要をつかみ、講師への期待感をもつとともに、現在の将来の夢や、それに向けて努力していることなどについて、ワークシートを用いてまとめる。 「総合的な学習の時間」2時間（本事業） ・講話を聴いたり動画を観たりしながら、フェアプレイの精神や、自分の夢を目指して努力することの尊さを学ぶ。 「道徳」1時間（事後学習） ・目黒氏の講話の後、講師への手紙の形式で学習のまとめを行い、上記事業としてのねらいやキャリア教育としてのねらいを達

	成できたかの評価を行う。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習では、東京オリンピック(1964)や札幌オリンピック(1972)について学ぶ中で、「知らなかった。」「2020年の東京オリンピックが楽しみだ。」などの声が上ががり、オリンピック・パラリンピックへの興味関心の高まりが見られた。また、将来の夢を見つめる中で、自分自身への理解が深まった。 ・講話を聴く活動では、実際に競技で使った道具に触れたり、動画を観たりしたことで、「バイアスロンという競技を初めて知ることができた。」「興奮した。」という声が多かった。また、振り返りシート(手紙)の中では、「フレンドシップ」「努力は必ず結果に結び付く。」という講師の言葉に触発され、「お互いを認め合うことや感謝し合うことの大切さに気が付いた。」「自分も将来の夢に向かってくじけずに努力し続けたい。」「一生懸命やれば夢は叶うことを信じて、頑張り続ける勇気が出た。」という言葉が多く見られた。これらのことから、本学習のねらいが十分に達成できたと捉えている。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ではキャリア教育の一環として、本事業を活用している。「小学校キャリア教育の手引き」(文部科学省)で示されている「基礎的・汎用的能力」の中でも、特に「人間関係形成・社会形成能力」と「自己理解・自己管理能力」の向上を重視している。そのためには、講師を招聘し、直接話を聴く機会を設けることが欠かせないが、予算等の関係もありなかなか実現できない現状である。そのような中、本事業は大変ありがたい。ただ、小学生にとってやや難解な内容であったり、日常では使わない言葉が出現し、結果伝わりにくかったりする場面もあった。事前に講師と担当者との打ち合わせを設けることで、これらの課題は解決できると考える。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。